

市政を動かす確かな力～日本共産党

市民の願い実現へトコトンがんばる党です

日本共産党の立党の精神は「国民の苦難の軽減」です。国民の暮らしを応援し、願い実現のためにトコトンがんばるのが日本共産党です。

- 子ども医療費助成を3歳から小学6年生まで拡大
- 特別養護老人ホームの増設(4年間で268床分)
- はり・灸・マッサージ助成の復活を条例提案
- 放課後児童クラブを全小学校区に設置
- 戸建て住宅への耐震改修助成制度
- 春木川の水害対策

はり・灸・マッサージ助成券を復活

…行政を世論で動かす

「後期高齢者医療制度」導入にともなって75歳以上の「はり・灸・マッサージ助成券」が廃止された際、日本共産党は市内の治療院をすべて訪問して声を集め、市議会でも「助成制度復活の条例提案」をおこないました。条例案は自民・公明・民主の反対で否決されましたが、市民の声に押され、翌年には助成制度の復活が実現されました。

こどもの医療費、しつこいくらい粘り強く

30年以上前から要求

日本共産党が松戸市で「子ども医療費無料化」に取り組みだしたのは30年以上前です。「お金のあるなしで、こどもの命に格差を生まない」という思いから、女性団体とともに署名を集め、対市・対県交渉を重ね、市民の陳情・請願の採択にも全力を尽くしました。

自民・民主・公明の妨害にめげず

07年3月議会では、子ども医療費無料化の陳情に対する「無料にすれば、子ども達が薬漬けになる」という議員の発言に自民・公明・民主の議員が同調し、こぞって反対。日本共産党は一步も退かず、この4年間に16回開かれた定例市議会でも13回も、毎回のように無料化の拡大を訴え続け、ついにこの9月議会、4年前には3歳までだった助成対象が小学6年生まで上げられました。

県会議員とも連携して

日本共産党は県議会でも、これまでに「窓口無料化は困難だ。」という県当局の言い分を、所得制限をなくせば事務がうんと簡素化できる事実を示してうち破るなど、大奮闘してきました。そして、この12月から小学3年生までの窓口無料化を実現し、松戸市での小学6年生までの無料化をあと押ししました。

「貧困ビジネス」「派遣切り」から救う

「貧困ビジネス」に直接のりこむ

まだ「貧困ビジネス」の実態が知られていなかった09年10月、日本共産党松戸市議団はみわ由美県議とともに、県内で初めて、松戸市内の「無料低額宿泊所」に乗り込みました。



2009年10月

生活保護費12万円のうち9万円も天引きされたうえ、天井とのスキマのあいた壁で仕切った6畳部屋に2人押し詰められたり、風呂も入れずシャワーが週3回という驚くべき実態を告発し、改善させました。

「派遣村」で「派遣切り」された労働者救う



2009年11月 松戸駅東口

労働組合や医療機関と協力し、「まつど派遣村」や街頭労働・生活相談を実施。「派遣切り」にあつてホームレスとなり、健康を害しながらも医者にも行けない労働者を、その日のうちに生活保護を受けさせ、アパートも確保するなど、トコトンがんばる党です。

建設的提案で財源確保

大銀行にもモノを言い35億円節約

90年代後半、松戸市には高金利時代の借金の利払いが重くのしかかっていました。日本共産党は低金利への借り換えを提案し、5年間で35億円もの節約を実現。今でも市役所内の「語り草」です。

積極的見直しで3億円節約提案

市役所や学校のコンピュータのリース契約見直し、多量排出事業者のゴミ処理費用負担適正化、防犯灯の電気契約の割引制度を活用するなど、年間約3億円の経費節約が可能です。

大型開発のための基金を市民生活に

松戸市には24種類、100億円以上の「基金」(資産)があります。なかにはすでに使命を終えた「土地開発基金」(48億円)もあります。ため込んだ各種基金の一部を市民の暮らしのために活用します。

予算の1%のやりくりで国保引き下げ可能です

国保料を1世帯1万円さげる予算は全世帯を対象にしても約8億3千万円。子どもの医療費無料化の対象年齢を1歳ひろげるための予算は約8千万円。松戸市の予算規模(一般会計)約1200億円のそれぞれ0.7%、0.07%のやりくりです。

病院問題



新市立病院は現在の機能・規模の堅持を

松戸市立病院は613床を擁し、第3次救急、小児・周産期医療、がん治療拠点という3つの大きな機能をもった、広域の中核病院です。日本共産党は、その機能と規模にふさわしい建て替えをと主張してきました。新市長の450床案では、この機能は維持できません。病院関係者や市民も参加し、現地建て替えも含め徹底した再検討を行い、結果を住民に公開し、ふさわしい病院となるよう、全力でがんばります。



赤ちゃんの命を24時間守るNICU

市立病院も東松戸病院も公設公営で安心の医療を

民営化された公立病院は全国どこでも、患者負担の激増や職員の非正規化でたいへんな状況になっています。救急医療を支える松戸市立病院。リハビリなど慢性期医療を支える東松戸病院。どちらも市民が安心してかれ、医師や看護師が希望と誇りを持って働けるよう、日本共産党は公設公営を守りぬきます。

補助金を激減させた国・県の責任は重大

救急患者の20%、外来の28%、入院の30%は市外からです。ところが補助金は収入のたった0.3%。国・県に相応の支援を強く求めます。

市長、国・県にもハッキリものを言います

職業訓練センターは存続を

民主党政権は、事業仕分けで職業訓練センターをすべて廃止に。野田市はすでに市長が存続を明言。ところが松戸の市長は「売却も検討」。とんでもありません。日本共産党は市長にも国にもハッキリものを言い、存続のために全力を尽くします。

児童相談所を松戸にも

雇用不安や生活苦のストレスの中で、こどもの行動や発達、家族関係の悩みは深刻で、一部には虐待や育児放棄も生まれています。ところが、市川市や柏市にある児童相談所が松戸市にはありません。県にもハッキリものを言い、松戸市にも設置をめざします。

議会と議員のあり方が問われています

市民いじめの「オール与党」市議会では困ります

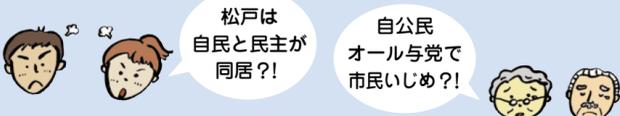
松戸市ではこれまで、「行財政改革」の名で寝たきり身体障害者や親を亡くした子どもへの手当の削減、学校の統廃合など、福祉や教育の後退がすすみました。その一方で、民間の区画整理事業には多額の税金がつけ込まれました。

市議会の多数を占める自民系、公明、民主の議員は、前市長の提案にはすべて賛成。市民の願いは冷たく拒否。日本共産党をのぞく「オール与党」で市民いじめの政治をすすめてきました。

松戸市議会の民主党議員は、自民系議員と同じ会派「まつど未来」に所属し、決算討論も自民系議員にまかせるほどです。

市民の切なる願い(請願・陳情)	自民系	民主党(まつど未来)	公明党	共産党
トイレ改修、少人数学級、保護者負担軽減	×	×	×	○
国民健康保険料の引き下げ	×	×	×	○
子ども医療費 無料化	×	×	×	○

○=賛成 ×=反対



前市長の暮らし削る提案	自民系	民主党(まつど未来)	公明党	共産党
障害者などへの手当、敬老祝い金削減	○	○	○	×
小中学校の廃校	○	○	○	×
保育所の民営化・小学校給食の民間委託	○	○	○	×

○=賛成 ×=反対

黙って座っているだけの議員では困ります

議場に座っているだけで、市民の声をとりあげない議員はいりません。議会のない時も市民の声を聞き、生活相談・労働相談にのり、調査をして議会に反映し、行政を動かす。そして、議会の様子を住民に報告する。これが本来の議員のあり方ではないでしょうか。

政務調査費の不正流用や、不法薬物販売を行った議員がまた選挙に出るなんて、断じて許せません。

しっかり発言、きちんと報告～日本共産党議員

日本共産党の議員は、毎議会必ず質問を行い、市政のムダ使いや福祉、暮らし、教育の後退をチェックしてきました。議会後は内容を知らせる「議会報告」をみなさんのお宅にお届けし、地域で議会報告会を開催しています。これは議員なら当然ですが、選挙の時だけの議員もいます。

しっかり発言、きちんと報告。こうした日本共産党の議員こそ市議会に必要です。

